

第4回苫小牧市多文化共生指針策定準備会議 会議録

○成田室長 お時間になりましたので、欠席の方もおられますけども、ただいまより、第4回の苫小牧市多文化共生指針策定準備会議を開会させていただきます。

本日は、足元の悪い中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今年度、最後の会議となりますので、冒頭に総合政策部長の町田より、一言ご挨拶申し上げます。

○町田部長 皆さん、おはようございます。本日はご多忙の中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆さんには、これまで4回にわたり、多文化共生指針策定準備会議にご参加をいただきまして、感謝を申し上げるところでございます。これまでの会議を通しまして様々なご議論をいただき、ビジョンの策定など多文化共生の取組について、皆さんのおかげで進めることができたところでございます。

本市の外国人住民につきましては、昨年度末で1,379名となっておりまして、この後の会議の中でもご紹介する予定ですが、年末に総務省から発表がありました2017年末から2022年末の5年間の外国人人口は、全国で5番目の増加率となっている状況でございます。また、2023年の1年間におきましては、360名の増加となっており、増加傾向は顕著な状況であるところでございます。この現状を踏まえまして、市の多文化共生の取組について、さらなる推進を図ってまいりたいと考えているところでございます。

令和6年度には、より具体的な取組を盛り込みました多文化共生指針を策定する予定となっておりますので、委員の皆様には、次年度以降の取組につきましても引き続きお力添えをいただきたいと考えております。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○成田室長 町田部長においてはこの後に公務がございまして、ここで退席となります。

○町田部長 すみません。それでは、よろしくお願いいたします。失礼します。

○成田室長 本日、都市再生アドバイザーの田村様におかれましては、諸事情によりましてオンラインで出席をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

それでは、会議に入らせていただきます。小田島座長、よろしくお願いいたします。

○小田島座長 皆さん、おはようございます。今日は4回目となりますがよろしくお願いいたします。それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思っておりますので、まず次第の1、今年度事業の進捗共有・苫小牧市の最新外国人住民の状況についてご説明をお願いいたします。

○上原主事 それでは冒頭に、今年度事業の進捗と最新の外国人住民の状況について、共有をさせていただきます。

資料の5ページをご覧ください。今年度事業の全体スケジュールを示しており、現在地を赤の点線で示しております。事業ごとに進捗を簡単にご説明いたします。準備会議は、本日が第4回目となり、今年度最後の開催となります。次に、多文化共生市民アンケートの結果については、後ほど詳細をご報告させていただきます。

続いて、多文化共生ビジョンについては、別紙の資料1と資料2をご覧ください。前回の会議で、案についてご意見をいただきました後、庁内全体でも内容を共有、確認いたしました。その結果、文言整理などにより、若干の修正を行いましたのでご報告させていただきます。資料1は前回会議時点の案、資料2は最終案となり、赤字で示した部分が、前回の案からの変更となった部分になります。当初、12月議会に報告し、年明けの公表を予定しておりましたが、内部での意見集約等のため3月議会への報告、年度内の公表というスケジュールに変更をしております。

次に、庁内会議については、前回準備会議の後、ビジョンの内容について意見集約を行いました。今後も準備会議に諮った内容の共有を随時行ってまいります。そのほか、国際化推進事業として実施している具体的な取組も記載をしております。

次に、最新の外国人住民の状況について情報を共有させていただきます。資料の6ページをご覧ください。外国人住民数は、昨年末時点で1,379人、外国人住民の割合は0.83%となっております。昨年1年間で、外国人住民は360人の増加となりました。一方、市の人口は、1年間で1,453人の減少となっております。

7ページには、道内の様子を示しております。北海道全体でも昨年1年間で、外国人住民数は10,700人増加をしており、本市は、昨年末時点で道内5番目の外国人住民数となっております。

次に8ページには、令和4年末から令和5年末の1年間における外国人住民の国籍別・在留資格別の割合の変化を示しております。国籍別では、ネパール・インドネシア国籍の割合が増えていること、在留資格別では留学の割合が大きく増えていることが分かります。

次に9ページ目から11ページ目には、国籍別・在留資格別の推移の様子を示しておりますが、国籍ではベトナム、中国、ネパール、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、スリランカなど多くの国籍で住民数が増加しているほか、在留資格では技能実習、留学、特定技能、技術・人文・国際業務で増加をしております。

次に12ページをご覧ください。昨年12月に総務省から発表された地方公共団体の人口に占める外国人人口の割合（上位20市町村）の資料になります。右側の外国人住民が1,000人以上の自治体を対象とした2017年末から2022年末の5年間の外国人人口の増加率において、本市が全国第5位となりました。この資料においては、本市の外国人の増加率が全国的に見ても上位の状況である様子が示されております。

簡単ではありますが、以上で説明を終わります。

○小田島座長 それではただいまの説明につきまして、委員の皆様から何かご質問等はありませんでしょうか。私の印象ですけれども、コロナ前の外国人の率に各自治体がほぼ戻ってきたような感じもします。プラス日本人が減っているので、率が上がっている自治体もちょっと出てきたかな、特に赤井川村、キロロリゾートがあるところですけど、この辺がコロナ前よりもぐっと上がっているということですね。

田村さん、このデータですね、全国的なところもあると思いますが、苫小牧の増加率は

全国5位ということで、この上位の自治体で何か特徴的なことが、もしあれば、共有していただけますか。

○田村氏 増加率が高いということは、今までそんなに多くなかったということで、今まで多くなかったところでぐっと増えるときに、必ず起きるのは地域でのハレーションですね。今まで外国人と接したことのなかった人たちが、近所に外国人が住むようになって、ちょっとどきどきするというか、戸惑いを感じるということが起きがちなので、この指針、ビジョンでは、どちらかという外国人向けの、必要な支援のお話が、今までやってきた部分が多かったと思いますが、特に地域住民、地域全体での理解ですね、あるいは相互の理解の促進というところにより力を入れなきゃいけないということが、こういった全国で5番目に伸び率が高い自治体としても急がれる部分だなと改めて認識をしました。

○小田島座長 ありがとうございます。ほかの委員の皆さん、よろしいですか。特にないでしょうか。それでは、次第の2に進みます。準備会議において皆さんにご議論いただきまして実施しました、多文化共生市民アンケートの結果について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○上原主事 それでは、多文化共生市民アンケートの結果についてご説明いたします。皆様には、事前に別添資料3のアンケートの結果報告書案を送付させていただきました。本日は、時間の都合上、資料の本編に沿ってご説明をいたします。

資料の14ページをご覧ください。まずは、外国人向けの市民アンケートについてご報告をいたします。アンケートの調査対象は、昨年8月1日時点を基準日とし、特別永住者を除く13歳以上の外国人住民1,042人となりました。調査期間は、令和5年10月6日から20日まで、調査方法は、回答用紙を全件郵送し、回答は郵送及びオンライン上での受付を行いました。言語については、資料記載の6言語で作成し、対象者の国籍ごとに発送をしております。回答状況になりますが、郵便局からの返戻が45人、回答数が226人で回答率は22.7%となりました。回答方法については、郵送が65%、オンラインが35%となり、郵送回答が多い結果となりました。国籍別の回答状況は、ベトナム、インドネシア国籍の回答率が比較的高く、言語別ではやさしい日本語でのアンケート回答が一番多い結果となりました。

続いて、15ページをご覧ください。日本人向けのアンケート結果になります。調査対象は、外国人向けと同様に8月1日時点を基準日とし、13歳以上の日本人市民2,030人となっております。市内を7つのエリア分け、住民基本台帳から、年代・性別ごとに均等に無作為抽出を行いました。調査期間も外国人向け同様に令和5年10月6日から20日、調査方法は、回答用紙を全件郵送し、回答は郵送及びオンライン上で受付を行いました。回答状況になりますが、郵便局からの返戻が17人、回答者数が527人で回答率は26.2%となりました。回答方法については郵送が77%、オンラインが23%となり、郵送回答が多い結果となりました。年代別の回答状況ですが、50代以上の回答率が高く、20代の回答率が一番低い結果となりました。

この多文化共生市民アンケートの実施により、本市の現状など基礎的な資料やデータの収集ができましたので、今後はクロス集計や分析などを行い、次年度の指針策定に向けて活用をしていきたいと考えております。以上で説明を終わります。

○小田島座長 ありがとうございます。アンケートの結果について、今回は単純集計ということで、次年度の指針策定に向けては今後詳細の分析を行うというお話がありました。

アンケートの内容に関するご印象、ご意見については、後ほど次第の4の意見交換で、皆様からお伺いしたいと思っておりますので、この場では、基礎の報告について、何かご質問等があればお受けしたいと思います。田村さん、何か質問はありますか。

○田村氏 日本人の回答者で高齢者が多いので、これが実際の人口と年代の分布とどのぐらい違うのかというところは、今回単純集計ということですが、配慮しなきゃいけないかなと感じています。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。それでは、アンケートの結果を次年度の指針策定に活用していただければと思います。

それでは、次第3の令和6年度多文化共生指針策定の進め方について事務局から説明をお願いいたします。

○上原主事 それでは、令和6年度多文化共生指針策定の進め方について、資料に沿ってご説明いたします。

資料の17ページをご覧ください。苫小牧市多文化共生指針策定に向けた流れを示しており、令和6年度は、赤枠で囲ってあります今年度までの流れを継続し、苫小牧市多文化共生指針の策定に向けて取り組む予定となっております。

具体的な事業は、18ページをご覧ください。苫小牧市多文化共生指針策定事業の概要を簡単に説明いたします。大まかなスケジュールとしては、10月までに指針案の策定作業、11月にパブリックコメントの実施、12月に議会の委員会報告を経て、年明けに公表をする形で予定をしております。具体的な取組の内容ですが、会議の開催を通じ、指針の内容について意見交換を行う多文化共生指針策定会議を年3回（5月・9月・1月）で予定をしております。準備会議の委員の皆様には、策定会議にも引き続き継続してご参加いただきたいと考えております。また、人数を拡大し、新たな関係機関を加えて開催をしたいと考えております。

次に、今年度からの継続となりますが、指針策定に向けた課題共有と各課における施策の検討、職員向けの勉強会の開催などを行う多文化共生庁内連携会議を引き続き開催いたします。勉強会に関しては、東胆振定住自立圏など近隣自治体や関係機関と連携をした形で開催を継続する予定です。

次に、多文化共生分野の都市再生アドバイザー（有識者）についてですが、引き続き事業推進に係る助言、有識者や先進地事例の紹介、事業全体のコーディネートを田村先生にお願いをする予定です。

次に、苫小牧市多文化共生指針策定支援業務についてですが、多文化共生指針策定に当

たり、既存調査の詳細分析や指針の構成案の策定、デザインの構成、成果品作成などについて、策定支援業務として事業委託を行う予定です。できるだけ早い時期に事業者の選定を行い、進めてまいりたいと考えております。

次に、19ページをご覧ください。当市の令和6年度における多文化共生に関する事業を示しております。左上の部分が、先ほどご説明した令和5年度の指針策定事前整備事業を踏まえ、本市の多文化共生指針を策定する苫小牧市多文化共生指針策定事業になります。

次に、右上の黄色の部分になりますが、多文化共生社会の形成に向け、日本人と外国人が一緒に参加をする事業等を企画・実施する国際化推進事業になります。公共サービス民間提案制度を活用した民間事業者への委託事業となっており、令和7年度までの採択が決定をしております。

次に、左下になりますが、国際交流サロン運営事業として、拠点議論と連動し、事業を進めていきたいと考えております。令和6年度は、外国人相談窓口への相談員配置やタブレット型の機械・映像通訳サービスの導入など、相談件数の増加に対応するための体制強化に取り組みます。また、地域日本語教室については、学習型・交流型教室の機能の充実に向けた仕組みの検討を行う予定です。さらに多文化共生の地域づくり事業として、各地域における外国人住民と日本人住民の交流会を実施する予定です。

最後に右下の緑色の部分になりますが、その他の事業として、多文化共生をテーマにした都市再生講演会の開催や関係機関と連携をした事業を引き続き実施してまいりたいと考えております。今、ご説明をした各事業を連動させながら、令和6年度事業を進めていく予定です。説明は以上となります。

○小田島座長 ありがとうございます。ただいまの事務局からの、次年度の事業の進め方につきまして大枠が示されたところですが、委員の皆様から何か、ご質問等があればお受けしたいと思えます。

○千寺丸委員 今年度、上原君に頼んで、社会福祉協議会で関わっている方々に外国人との交流について少し学んでもらいたいというところで、一度やっていただきました。参加者12名で、2日目に体調不良者が出て、7・8人の参加者になってしまいましたが、参加者は非常に喜んでいただいている、僕たちが思っているより、周りの地域の方々が非常に暖かい感じで、受入れ可能かなという手応えがあったところがありますので、来年度に向けて、この地域の日本語の担い手の育成に向けたところは、私たちのボランティアセンターや、地域に関わっている方々に広く流して進めていければと思っていますので、再度また検討していただければと思います。また、協力をよろしくお願ひしたいと思えます。

○小田島座長 ありがとうございます。外国人の方も来たのですか。

○千寺丸委員 いや、今回は日本人のみです。先生に頼んで、やさしい日本語について、簡単に説明してもらいまして。これからどういうふうに地域交流をしていくのがいいのか、私たちが関わっている方は結構高齢の方が多いのですが、今回若めの方にお願ひして来ていただきました。思ったより、やさしい日本語が難しいというところが、みんなの感想で

あったのかなというところと、あと、来てくれている方の雰囲気が非常によく、これから迎え入れる側としてちゃんと心構えをしておかなければならないなど見えたので、もっと広げていければ、地域の困っている方が少しでも減るような形でできると感じました。

○小田島座長 ありがとうございます。次年度のスキームの中で、また、よろしく願います。ほかに、どうでしょうか。

○奥村委員 細かいお話になるのですが、19ページですね、中国語・英語等の教室とあるんですが、この等は具体的にどういう語学の教室が予定されているのか、あと地域日本語教室、これもホームページで拝見したんですけども、具体的にどの地域にはあって、どの地域で不足していて、どの地域につくろうとしているのかがあれば、ぜひ教えていただきたいと思います。

○小田島座長 右上のところですね。中国語・英語等の等、この言語以外のところですね。それから、地域の日本語、左下のところの、どの辺のエリアをターゲットとしているか、そういうお話でしょうかね。

○奥村委員 はい。道の中で今一番多いベトナムとか、今増えているネパールとか、いろんなものが視野に入っているのかどうかとか。地域の日本語教室も今で十分なのか、あと、教室自体が通年行われているのか、ある期間、春とか秋とかというだけで効果があるのかどうかというところの現状、ハードと課題みたいところが分かれば。

○小田島座長 今、奥村委員からのご質問ですけど、事務局の方で願います。

○上原主事 まず、この国際化推進事業というもの、令和5年度も民間事業者に委託事業という形でお願いをしております、今年度に関しましては、以前は直営でやっていた国際交流サロンでの中国語教室、英語教室の実施をまずお願いをして、今年度開催をしたところでございます。ただ、ここは、中国語、英語だけに限って制限をしているところではありませんし、事業自体が民間事業者からの提案を受けてというところの枠組みになりますので、次年度以降は中国語、英語だけに限らず、民間事業者と協議をしながら、今、例えば増えているベトナム国籍ですとか、インドネシアとかも含めて、様々な形で事業者と検討しながら進めていければと考えております、今、何語ということでは明確には決まっておりますけれども、逆に中国語、英語のみということでは決まっているわけでもございませんので、これから次年度の事業計画に向けて協議をしながら進めていければと考えております。

地域日本語教育の部分に関してですが、既存の教室については第3回の準備会議でもご説明をさせていただいたとおり、国際交流サロンでのボランティアさんをお願いをしている日本語教室を、苫小牧では地域の日本語教室として、まずは位置づけているというところですが、やはりそのニーズが高まってきているという部分と、この今回のアンケートの結果で、土日に開催してほしいですとか、声の中ではやはり家の近くで開催してほしいという意見もございましたので、もう少しこれは、詳細を分析しなければいけないと思いますけれども、まずは、どこで何回というのをいきなり決めるのは難しいと思います

が、アンケートの中身を見ながら実証という部分で、いろいろな形を繰り返しながら、新たな取組を関係機関と協議をさせていただきながら、次年度に関しては、何かしら少しずつ進めていければいいかなと今のところ考えております。

○奥村委員 はい、ありがとうございます。今、一つ引っかかったのは、ボランティアの方をお願いするということですが、そのボランティアのための日本語指導法とか教育みたいな市からのボトムアップといった計画はおありなのでしょうか。

○上原主事 そうですね、サロンで現状活動しているボランティアさんは日本語教師の資格を持っている方ということで、まずは教室の今後の整理といたしますか、本当に教師の方に教えていただく学習型に近いような教室と、先ほど千寺丸さんからいただいたような交流をベースにするような、居場所・地域の日本語というところで、まずそこを整理した上でそれぞれの担い手に向けた育成というか、講座みたいなものが必要になってくると思いますし、まずはそこを市の方でも、どういう形で整理したらいいのかというのは本当に今、試行錯誤しているところですので、実証的にいろいろな形でやりながら、当然その担い手にも人材育成というか、機会をやはり提供していくということも両輪で回していかなければいけないと考えております。その辺り、指針にも盛り込んでいきたいと考えていますので、また継続してご議論というか、ご意見をいただければと考えております。

○奥村委員 ありがとうございます。

○田山地主幹 交流型のような取組というのも、今回コロナが明けて外国人が増えて、初めて行っているところもありますので、このまちにどういったニーズがどれぐらいあるのかということは、これから検証しながらスキームを組み立てていきたいなと思っています。

○奥村委員 と言いましたのは、ご承知のようにこの4月から、日本語教師も国家資格化と決まっていますので、ボランティアには基本的に必要ないと思うのですが、そのところのけじめというか、線引きも市の方で、あるいはどこかで誰かが指針を出してあげないと、資格を取らないとボランティアもできないんだという風潮になっちゃうと、結構頭でっかちで問題になるのかもしれないところがありましたので、そういう意味も込めまして質問してみました。ありがとうございました。

○小田島座長 これから事業策定していく中で、整理が必要になってくると思いますけど、次年度について、今回日本語教室ということで奥村委員の方からお話がありましたが、そのほかにも事業を策定していく上で整理していかなきゃいけないこと、多々出てくると思います。来年度、また皆さんにご議論いただくことになるかなと思います。ほかにかがでしょうか。

○千寺丸委員 昨日、うちの職員の中でこの話をさせていただいて、何かみんなが考えることはないかと確認したんですけども、外国人の方が地域に望んでいることを一度知ってから、私たち地域の方に持って行って説明したいねという話が出ていました。

こちらが思っていることと当事者が思っていることが違うことがあると思うので、無理にこちらから投げるより、向こうの考えていることを知らせて、知りたいこととかやって

みたいところ、交流したいところみたいなのを教えていただけると、地域に持っていきやすいということになるので、そういうところをまとめていただければなという感じでした。

○小田島座長 そうですね、アンケートにもいろいろコメントが出ていましたので、そのニーズとこちらが考えていることをしっかりマッチングをしないと、誰のための事業かというのが分からなくなると思いますので、そこはしっかりお願いしたいと思います。

ほかにはいかがでしょう。田村さん、何かコメントはありますか。

○田村氏 ありがとうございます。この事業の分け方が、基本的にこちら側、予算の出元や、誰がやるかというところで分けているのですけれども、一般の人から見たら、外国人向けにやっている事業と、日本人向けにやっている事業と、両方の担い手を育てていくための事業と、何か三つぐらいに分類できるのかなという気がするのですが、見せ方として、割と混在しているような気がします。これはこれでいいと思うのですけれども、一般に、例えば市報とかで見せるときに、このまま見せるとちょっと分かりにくいかなという気がするのですが、外国人住民向けにやっているものはこういうもので、日本人の方向けにやっているのはこういうもので、担い手育成でやっているのはこういうものですよ、全体のベースになるところで指針の策定がありますよ、みたいな見せ方として工夫をされると、より分かりやすく伝わると思いました。中身に関して、特に質問等はありません。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。オープンにするときですね。要は、策定していつて、市民の方にオープンにする際に、苫小牧市としてどういう取組をしていくかという分類として分かりやすいようにという田村さんのコメントでした。

ほかには。よろしいですか。それでは、次第の4に移っていきたいと思います。

意見交換として、今年度の振り返り、それから、次年度の活動ですね。来年度は、多文化共生指針策定ということで進んでいきますけれども、今年度は4回、指針策定の土台となるビジョンを皆さんのご意見をいただきながら作成したところです。

皆さま、それぞれのお立場で振り返って、これからの取組についてのコメントですとか、皆さんがお持ちの、例えばこんなことができるんじゃないかとか、ご提案ですとか、情報共有だとか含めて、コメントをいただければと考えております。最後ですので、全員からコメントをいただきたいと思います。

その前に、ご欠席の委員からコメントを預かっているということですので、先に、事務局からご欠席の委員のコメントをご紹介いただければと思います。お願いします。

○上原主事 それでは、本日ご欠席された委員のうち、王子サーモンの阿部委員、未来創造戦略室の王慶娟、ハニック・リリーからのコメントを紹介させていただきます。

まず、王子サーモンの阿部委員からのコメントになります。今年度の振り返りと次年度の活動についての意見となります。王子サーモンでは、今年度、最大34名いた外国人従業員が20名退職をしました。異動先は内地の大手企業が多く、賃金や気候、北海道の寒さの影響があるようです。弊社も外国人労働者の待遇の改善を図り、何とか残って働いてもらえるように対応していますが、このままでは本当に労働者を必要としている地方の中

小企業に人が集まらなくなり、企業だけでは苦しい状況になってくると感じております。日本や日本人に好感を持って来日してくる方も多いため、地域の方々と交流できる場が増え、愛着を持ってもらえれば、苫小牧市が住みやすいまち、魅力あるまちとなり、流出抑止につながるのではと考えています。例えば、交流サロンの整備、場所、時間、通信、イベント等が考えられると思います。現在は、増加した留学生のアルバイト採用を進め、今後は、2025年に技能実習制度が変更される前に、現行制度の技能実習生の採用を検討しています。国籍は、ミャンマー、ラオスの働きぶりがいい評判を聞いておりますので、その辺りを考えております。以上となります。

続いて、未来創造戦略室の王慶娟のコメントを紹介させていただきます。今年度の振り返りとして2点あります。1点目が市役所に来る外国人の相談で、日本語を全く話せない外国人の子供の学校の転入や、病院での診察などの相談件数が増えてきたため、学校や病院などの公共施設でAI、機械通訳サービスの導入の検討が必要だと思っております。2点目が、外国人労働者の労働環境を向上させるため、市役所や外国人を雇用する企業は、メンタルヘルスの相談や支援を定期的に行うことが必要だと思っております。次に、今年度お示した市の方向性を踏まえたこれからの取組として、意見が3点あります。まず、苫小牧市の経済発展のため、外国人向けの起業支援や市の事業、例えばキッチンカー事業や港まつりなどのイベントにおいて、多言語での情報共有や参加の案内。2点目が、市の西部、中部、東部に分けて多文化交流会や移動相談会などを実施すれば、外国人住民や特に外国人労働者が参加しやすくなるのではないか。3点目は、外国人向けの日常生活に必要な日本語講座、例えば病院での受診時や緊急時の表現を教える講座などの実施を考えていきたいということで、以上のコメントを預かっています。

次に、未来創造戦略室、ハニック・リリーの意見を紹介させていただきます。市民アンケートの結果についての意見、感想や気になったことが4点あります。1点目、びっくりしたことに、多くの外国人は、外国人相談窓口を知らなかった。そのため、国際交流サロンのPRをもっとしなければいけません。2点目は、うれしいことに、多くの外国人住民が苫小牧について好印象があることが分かりました。3点目は、多くの苫小牧に住んでいる外国人は、日本語能力試験の資格を持っていませんが、日本語を勉強しています。仕事で困っている理由の中で、コミュニケーションが取れない、日本語が通じないという理由がよくありました。今、就職をしていて、勉強をしたい外国人住民にどのように対応をすればいいのか考える必要があります。4点目が、ベトナム人が多いので、ベトナム語が話せるスタッフを雇ったほうがいいと思います。次に、これから考えなければいけないこととして、意見が2点あります。1点目は、病院では多言語対応がほとんどありません。たくさんの知り合いは、日本語が話せないという理由でサービスを断られた経験があります。2点目は、これから日本語があまり話せない子供が苫小牧の学校に入学すると思いますが、どうやって支援をするか、そして外国にルーツがある子供は差別を受けたこともあるので、学校の生徒と先生に、どうやって多文化共生の意識を身につけてもらえるのか、

考えていかなければいけないと思います、というコメントになります。

お預かりしているコメントは以上となりますので、小田島座長にお返しします。

○小田島座長 ありがとうございます。いろいろとコメントが出てきていますね。それでは、今日ご出席の皆さんからコメントをいただきたいのですが、グエンさん、大丈夫ですか。

○グエン委員 今まで何回かにわたって外国人向けのアンケートの話も出ていたと思うんですけど、僕は、たまたま上原さんからベトナム人のアンケートの翻訳とかもやらせてもらったので、その中で、日本語を勉強したい人も結構出てくるんですけど、時間、場所をかなり考えなきゃいけないかなど。場所は便利な場所、時間的には、毎回言っているような内容ですけど、土日、祝日が多かった。それと、ほかの国の人について僕は分からないけど、意外とベトナム人はスポーツ系などが好きで、そういったスポーツ系の交流会ができることとか、祭りとかみんな好きなので、さっきの王さんのコメントにもかぶっているんですけど、そういった案内が分かれば、みんな楽しく参加できるのかなと思っています。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。では、奥村さん。

○奥村委員 今年度の振り返りとしまして、苫小牧の特色というふうなものが国際交流にもあればいいかなど。17万人都市であるとか、港町であるとか、いろんなところを鑑みて、よそがこうしているからではなくて、だから苫小牧という特色の中で何を売りにするかというものがもう少しあったほうが、我々もそれに向かっての意見が出しやすいのかなというのが個人的な感想でした。

あと、自分の視点から、私は日本語教師養成をしていますので、その視点からいきますと、1985年から日本語教師養成が始まっていますが、ご承知のように、日本語教師は、日本語学校とか大学で日本語を教える教師の養成をしています。ですから、今、お話が出てきたような、小・中学校の児童生徒のための日本語教育とか、難民とか、海外で教えるとか、いろんなところの日本語の専門の教師の養成は大学でも教育機関でもしていません。そういうことを鑑みて、今、苫小牧市に必要なボランティアの人も、どういう人が必要なのかということを考えたり、お手伝いできればと、個人的な視点からはそのように考えております。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。五十嵐さん、お願いします。

○五十嵐委員 振り返りということで、私は日本語学校のほうで勤務していますので、やはり留学生がすごく増えている、北洋さんもそうですけど、特に国籍が南アジアだったり、これまで苫小牧にあまりいなかった外国人が増加しているということで、今後、この傾向は続くと見られていますが、例えばネパールとかスリランカは、どこまで継続的に入国するのかは、本当に国勢だったり、いろいろな状況によって急激に減ったりするので、急に増えた外国の言語対応、例えば多言語対応で、この人が、この言語が多いからここに人を充てしようとなったときに、そこにあまり充当すると、いつ目減りするかわからないとい

うリスクもあるので、多言語対応のところは、国籍の多いとか少ないとかというところだけで見るとは、なかなか難しいのかなと思っています。

それから、学校でいいますと、結構いろいろなところから問合せが来る回数が多いんですけども、やっぱり皆さんがおっしゃっていた医療の相談、うちは対応できないんですけど。子供が小学校に入ったとか、病院に行くんだけど、言語が通じなくて断られたり、というのが多く来るので、地域で多文化共生というのであれば、一番安心して暮らせるという部分で、医療ですとか、教育というところは、本当に必要なのかなと感じます。

あと、他の教育機関、うちもそうですけど、大学ですとか専門学校さんの学生との交流をしたいというお話をいただいたり、ゼミで一緒に活動したりしていますので、そういうのもうまく活用しながら、もっと多くの人たちと関わるチャンスがあればいいのかなと思います。個人的には、若い人同士の話を聞いていると、我々大人が考えるようなワークショップとか講座よりも何か全然違うところに楽しみを見いだしているところをいつも痛感するので、そういう若い人たちの意見に耳をどうやって傾けるか、あと意見を収集するかが課題かなと思っています。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。では、若山さん、よろしいでしょうか。

○若山委員 リーフレットとかも配らせてもらって、すみません。札幌出入国管理局の今年度の在留支援関係の取組としては、主に相談業務ですね。H I E C C主催の移動相談会、道内各地で開催されるそういった相談会で外国人に対して相談業務を行うということと、あとは、啓発活動ですかね。例えば、J I C Aが主催する多文化共生イベントに今回初めてブースを出展させていただいて、当庁の組織のPRですとか、そもそも入管と税関がどういう組織かというのを区別できていない方とかもいるので、そういった地域の方々に我々の組織がどういう組織かを知ってもらおうといった活動。それから、苫小牧市主催の、今回、避難所体験イベントでもブースを出させていただいたり、基本的に在留支援関係の業務はそれほど、全体の業務に占める割合というのは大きくないんですけども、少しずつ増えてきているなというのが感想です。今、当局の取組をお伝えしたんですけども、法務省、出入国在留管理局としての取組としては、昨年6月に外国人との共生社会の実現に向けたロードマップに基づいて、総合的対応策ということで、外国人との共生に係る啓発月間をまずつくろう、啓発イベントを実施してくださいということが定められました。

これに基づいて、国が毎年1月を、先ほどお配りしたんですけども、ライフ・イン・ハーモニー推進月間というふうに定めて、啓発活動を実施することになりました。今年初めての年だったのですけれども、東京でのイベントですね、中央イベントが1月21日に開催されました。地方の入管局ではこういったイベントの周知、SNSですとか、関係機関へのメール、リーフレットを使った周知ですとか、広報等をやっているんですけども、これとは別に、啓発活動として、地域の小中高生を対象とした出張授業というものも全国で実施し始めています。

先ほどお配りした紙なんですけども、札幌局でも、希望する学校があれば、こちらから

職員を派遣して、講座の内容についてはこちらをご覧くださいなのですが、当庁がどういった官署か、それから、やさしい日本語というのを実際に使ってみましょうという、ロールプレイとかを使ってやるとか、あと、三つ目ですね、多文化共生の社会の実現に向けて、国としてどういった取組をしているのかというのを子供向けに出張授業をするという取組を始めています。札幌局では、この3月に、倶知安の高校で初めて第1回の授業を行います。次年度以降もこういった取組を積極的に行っていきたいなと思っているのですが、特にこの出張授業に関しては、まだ対象となる、希望される学校が少ないので、苫小牧市さんでももし希望があれば、ぜひ担当宛てにご連絡いただければ、次年度以降、実際に職員を派遣して取組ができるかなと思います。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。では、最後、千寺丸さん、お願いします。

○千寺丸委員 今年度の振り返りということで、今年度からいろいろ外国人のことに考えて考えることになったので、今年度は何やってきたかなというところが、あまり今考えてもないんですけども、周りの方々と外国人のことについていろいろと話すきっかけになったかなと。地域の方々にも、今、どういう方が住んでいるか、何か地域の方が、外国人に対して困っていることはないか、考えていることはないかとか、そういうことを聞くことができたかなと。

あと、地域でイベントを多く、私たちも参加させていただいているんですけども、そこのお祭りとかイベントのときに、外国人の方が来るんですよ。来るんですけども、素通りしちゃうんですよ。やっぱり入ってこれないというところがあって、そこがちょっと後悔じゃないですけども、もっとこっち側が受け入れる態度を示せばよかったとか、こっちも何も準備していない中で受け入れることができたかなとか、いろいろ考えさせられることがあったなと思っています。そんな中でも、いろんな地域で多くいる地域には、今度、外国人の人にもイベントの中に一つブースをつくってもらって、一緒に楽しもうというようなことを、今、各地域に言って歩いています。なので、例えばどっかの国の何とか料理のお店を1軒、お祭りで出してもらって、そういう地域交流をしてもらおうと、今後、地域の中で顔を合わせたときに、挨拶しながら何か困っていることを聞き出せるんじゃないかなとか、何かそういうようなことを今考えているというところ。

あと、私、福祉のほうなので、介護の部分で多く今職員が入ってきているということも、昨日、介護福祉課の課長とお話ししている中で分かりました。現在20人ぐらいが市内で介護職として働いている。そういうところで、地域ごとに施設があるので、その施設と地域との交流の中に働いている外国人の方と、施設で入っている高齢者の方と、地域の高齢者の方と、何か交流ができれば、もっと何か施設側もよくなるんじゃないかなという話をさせていただいたので、そういうことを来年度の活動として、行政と一緒に進めていければなというふうに思っております。以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。皆様からコメントをいただきまして、せっかくですので、何かコメントに対して質問ですとか、あればお願いしたいと思います。

○五十嵐委員 2点あります。1点は、さっきのアンケートの結果は公表されるのでしょうか、一般市民に。

○田山地主幹 アンケートの結果（報告書）は、今、案の段階になっていますけれども、ホームページ上で、今後、オープンにしたいと思っています。

○五十嵐委員 ありがとうございます。あと、若山さんに質問なんですけれども、出前講座、小中高等となっているんですけれども、対象はあくまで学校なのでしょうか。

○若山委員 そうですね、大学生も歓迎ということで、日本語学校でもいいかということですよ。

○五十嵐委員 いや、外国人相手に出前講座はどうかと思うんですが、学校だとその学校の学生になりますけど、例えば地域で子供たちを集めると、いろんな学校の子たちだったり、学年の人たちが集まるので、そういう別で子供たちを集めた講座をやるときに、出前講座として来ていただけるかなと伺いたくて。

○若山委員 なるほど。私もこれが設置されたのが最近で、実際に実績とかもまだないので、対象がどれだけ自由度が利くものなのか、現段階では分からないんですけども。

○五十嵐委員 急ぐわけではないので、こちら、ご確認いただいて、後日でもお知らせいただけるとありがたいなと思います。

○若山委員 分かりました。

○田山地主幹 私たちも、つい先日、学校から依頼がありまして、多文化共生に関する出前講座みたいな形で行わせていただいたんですけども、学校側としても、全く知らなかったお話とかというのもあったりしたものですから、これからそういう依頼が増えるかもしれないので、そういったときに、回数とか、上限というか、何か条件はあるのでしょうか。

○若山委員 一応、推進月間である1月に主にやるというように定めてはいるんですけども、今回も3月に倶知安でやるということなので、多分、年間通じて職員が派遣できる限りは、こちらとしても積極的にやっていくのかなとは思ってますけども。

○田山地主幹 その場合、ケース・バイ・ケースだから、相談ですね。

○若山委員 そうですね。受入調整の担当の方でどういった判断になるか分かりませんが、恐らく受け入れると思います。

○田山地主幹 分かりました、ありがとうございます。

○小田島座長 ほかにいかがでしょうか。

○千寺丸委員 今、うちも高校生のボランティア活動にかなり力を入れてお願いしている部分があるんですけども、そういう高校生向けに、いろいろと外国人のことについて学んでもらうことをやっていきたいと思っています。これは、高校生といろいろ話をしている中で、いろんなことを僕たちも知りたいし、やっていきたいという声が多岐に多い。今回、高齢者の方への支援ということで活動していただいているんですけども、困っていることが、こんなことで困っているんだということを初めて知ったということが、すごく自分たちの勉強になったということがありました。なので、もっと中高生を使ったと言ったら失礼

かもしれないんですけど、中高生にも外国人との交流をもっと増やしていければいいのかなと思っていますし、何か人を集めろということであれば何ぼでも集めることができますので、ぜひ協力したいなと思っています。

あと、先ほどの子供たちがこれから入ってくる中で、子供たちへの対応も、今回、冬休みに小・中学生の学習を高校生が宿題を教えるとか、勉強を教えるとかという企画をやってみたんですけども、高校生と日本人の子供しかいなかったんですが、子供との交流が非常によく、受け入れることが高校生はすごくすんなり受け入れるんですよ。

前に、LGBTQの話も高校生と一緒にしたときに、全然吸収力が違うというか、対応力が違うというか、すごく感動してしまっただけですけども、そういう若い子たちの吸収力と接する力というのをもっと活用できるのではないかなと思っています。

スポーツに関して、サッカー部、野球部、スケート、アイスホッケー部だとか、今、非常に協力してくれているんですけども、そういうところで、交流、一緒にできるんじゃないかなと。スポーツは言葉がなくてもできるというところがありますので、いろんな交流をいろいろ考えていけば、もっと楽しく過ごす時間ができるのではないかなと思います。あと、今、働いている若い方々も、受入れに関してはいろんなところで協力したいと言ってくださっている方が非常に多いので、そういう人を活用しながら、苫小牧に住みやすい外国人が増えるようにできればと思っていますので、みんなでいろんなことを一緒に考えていければいいのかなと思っています。ぜひ何かみんなでまた協力できればなと思っていますので、何かあったら声をかけてください、お願いします。

○小田島座長 せっかくこういう集まり（会議）があるわけですから、この場だけのものにしないで、そのほかにどんどんつながって波及していければいいのかなと思います。ほかにかがでしよう。

○グエン委員 千寺丸さんのところで、別の国の人はよく分からないんですけど、ベトナムの人のグループ、僕の中でグループを持っていて、僕たち、フットサルもやっている、バドミントンも好きでやっている人が結構います。特にフットサルだったら、今、学校開放の施設も利用しています。回数が少ないから、まだもっとやりたい人が多いんですよ。今、月2回しかできないので、もっとやりたいと、週1回とか。学校開放だったら回数が決まってはあるので、そのほかにはまたやりたいときとか、そのときに連絡したりとか、お願いしたりとかはできますか。

○千寺丸委員 実際、フットサルをやっている子たちがいるので、そこに一緒にやっている日に、同じ日に行っていただいてやるということは可能ですね。もし、そこに行くことができないとか、車に乗って行くことができない、移動ができないという場合は、何かそれなりに手段を考える、行くことを考えることができるかなと思うんですよ。誰かが迎えに行って、帰りは送ってもらうとか、そういうこともしてもらえるような人がいるので、頼んでみることはできるかなと。

ただ、僕はサッカーができません。そこに一緒に行くことはできるので、声だけを出す

ということはできるので、何かそういうところで、上原君と一緒にやりながら、そこら辺を一緒に考えていければと思います。ぜひお願いします。

○グエン委員 お願いします。

○五十嵐委員 実は、日本語学校の学生と本社の社員もフットサルをやっているんですよ、外国人と一緒に。なので、それはみんなで行くので、1時間幾らとかじゃないですか。そうすると、1人の金額がすごく安くなるので、もしかすると、一緒にやると。別にいいんですよ、ほかの国の人がいっても。

○グエン委員 いや、全然いいですよ。スポーツ、みんなの交流なので。

○五十嵐委員 実は、今日の夜もやるんです。なので、そういう機会があったら、何か連絡できるものがあるといいですね、いつやりますよとか。

○グエン委員 そうですね。何か、また新しくグループ、欲しいですね。

○奥村委員 北洋大学、西の果てなんですからけれども、よければサッカー場もボールも無料でお貸しします。

○グエン委員 体育館ですよ。

○奥村委員 体育館もあるし、芝のグラウンドもサッカー場がありますので、無料でお貸しします。

○グエン委員 それはもう、本当にみんなお邪魔しますよ。

○奥村委員 すぐ、お待ちしておりますので、ぜひ使ってください。

○グエン委員 そのときは、どうやって連絡すればいいですか。

○奥村委員 私に連絡いただければ、大学の共催ということで、無料で使ってもらいますので。

○グエン委員 分かりました。そうしたら、早速、案内します。お願いします。

○小田島座長 スポーツ交流のほうは、ぐっと広がりましたね、今。ほかの分野でもこういう広がりがどんどんできればいいかなと思います。ほか、いかがですか。

○奥村委員 アンケート（日本人向け）についてなんですが、期待すべきというか、今後、多文化共生を考えてもらうべき20代、30代、40代の回収率が悪かったのですけれども、これは、今後、何か方策とかを考える必要があるのかなと思ったり。あと、もう一つは、アンケート（外国人向け）自体は全員に、例えば英語とか、ベトナム語とか、プラスやさしい日本語も折り込んだという理解でよかったですか。一番、やさしい日本語が回答率よかったので、多分そういうことですよ。

○上原主事 はい、そうです。

○奥村委員 両方盛り込んで、やさしい日本語の一番回答率がよかった。ということは、阪神・淡路大震災のときもそうだったのですけれども、外国語でやるよりはやさしい日本語で徹底するほうがいいよねという外国人のデータが出ていましたので、多言語化もいいんですよけれども、やさしい日本語の一本化、または、やさしい日本語の知名度を上げるとか、認知度を上げるとかというのでもいいのかもしれないなど、個人的に思いました。

○小田島座長 ほかいかがでしょうか。

○千寺丸委員 さっき、病院でのA Iの導入というお話があったと思うんですけども、やはり高齢者も病院に一人で行くというのが今非常に難しいことで、ボランティアと一緒にきてくれないかというような話が出てきています。

学校についても、なかなか通うことができない子供に対して、通学支援のボランティア、一緒に学校に行くというボランティアさんも今、話の中では増えてきているんです。そういう中で、やさしい日本語の使えるボランティアさんの育成ができてくれば、病院に付き添うということが可能になってくるのではないかなと今意見を聞いていて思いました。A Iの導入も早めに進めていただきたいんですけども、その前に何かできることがあれば、そういう付添いボランティアというのはいかなのかなと聞いていて思いました。

あと、メンタルヘルスの話も出ていたんですけども、苫小牧はメンタルの病院が何軒かありますが、なかなか外国人の方がすんなり入れるような雰囲気ではない。日本人もなかなかすんなり入れるような雰囲気ではないというところと、外国にあるようなメンタルを専門に扱っているクリニックさんとか、大都市にあるようなメンタルヘルスのクリニックさんは苫小牧にはないので、そういうところもなかなかハードルが高いのかなと話を聞いていて思いました。

そういうボランティアさんでできるようなことであれば、早めにいろいろ考えて対策を取って、今、本当に徐々に増えているのか、もう一気に増えてきているのかというところですけども、そういう対策も進めていきたいなと思っていますので、何か一緒に考え、本当に困り事に関して、今、初めて病院での受付方法とか、話を聞くというところも困っているというところが分かったので、うちもボランティアセンターにこの話を持って行って、そういうこと、可能なボランティアさん何人か、今の時点でどれだけいるのかなとか、何か興味のあるような人はどのぐらいいるのかというのは考えて、投げていきたいと思っています。上原さんもお忙しいとは思いますが、よろしくお願ひしたいなと思います。

○奥村委員 すみません、もう一つ、さっき王子サーモンさんのお話にありましたように、実習生であろうが、育成プランであろうが、来たけれど逃げちゃうという人が今後増えると思うんです。例えば、うちも去年の4月から留学生別科というのが160人くらい採って、ネパールが100人いるんですが、やはり寒いということと、これだけ雪が降られますとアルバイトに行けないとか、いろんな状況がありますので、環境は悪いです。それをどんなふうにカバーして、来てよかった苫小牧、住み続けたい苫小牧にしていくかという方策を次年度からの中には入れないと、組み込まないと、多分空論に終わっちゃうかな、目の前の現実をいかにクリアしていくかなということが必要なのかなと感じました。

○小田島座長 これは、苫小牧だけじゃなくて、北海道全体の永遠のテーマですね。いかがですか、大体よろしいですか。それでは、皆さんにお手伝いいただきましたビジョン、それを基に次年度、今度、指針を策定していくというところになっていくかと思ひます。

それでは、次第の5、その他ですが、特に議題等を決めていないということですので、

全体通して何か皆さん、コメントがあればお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

それでは、最後に、アドバイザーの田村先生より、今回の振り返りも含めて、一言お願いできればと思います。

○田村氏 ありがとうございます。お疲れさまでした。事務局の上原さんをはじめ、皆さん、しっかり取り組んでいただいている、非常に今のビジョン、それから、次年度以降の計画も大変手堅く、抜け漏れなく、まとまっているような印象を持っています。

という前提で、これから、じゃあ、もう少し欲張りに、ビジョンなり指針がよくなっていくようにするにはどうしたらいいかなという点を4点述べます。

一つは、苫小牧らしさというのをどう打ち出していくかということですね。私、全国でいろんなプラン、ビジョンの策定に関わっていますが、それぞれの地域らしさをもう少し打ち出してもいいのかなと思っています。皆さんの意見交換でも出ていたスポーツですね。苫小牧はスポーツが盛んなまちじゃないですか。たとえ寒くても、スポーツができるんだったら苫小牧で働きたい、暮らしたいという、何かそういうニーズはあるんじゃないかなと思いますね。あるいは、空港もあるし、港もあるし、苫小牧らしさというのがもう少し次の指針の中に入ってもいいのかなと。どうしたって雪は降るし、冬は寒いし、それもマイナスの部分もあるんだけど、プラスの部分、苫小牧の魅力というところをもう少し打ち出して、それであれば外国人の人も苫小牧に住みたいなどってもらえるような、苫小牧らしさをもう少し打ち出せるといいかなと思いますというのが1点目です。

2点目は、分かりやすいメッセージの打ち出しということですね。私自身、多文化共生というキーワードをずっと29年広めてきた張本人ですから、自分が言うのもなんですけど、多文化共生は、分かる人には分かるんだけど、分からない人には何かもやっとしていて、何となくよさそうだなというのはよく分かるんだけど、何をしたらいいのというのはいまいちよく分からない。若い人は、吸収力があって、みんな、瞳も多分きらきらしているから、多文化共生をやろうよっていったらすごく食いつきがいいと、さっきもお話ありましたけれども、ちょっと年を取っちゃうと目もにごっちゃうから、多文化共生はいいぜと言われても、本当かよと思いがちですので、どう市民全体に分かりやすいメッセージを出していくのかということですね。それは、もう今さら何か名前を変えたり、ビジョンをさらに深掘りしたりというそういう話ではなくて、ほかの自治体なんかでよくやっているような、例えば市の広報で毎週、市内で活躍している外国人の人を紹介するようなコーナーがあったり、ボランティアとして活動している人たちを顕彰して賞状を出すとか、何かこういうことをやればいいんだなというのが分かりやすくなるような、そういうメッセージの打ち出しとか、必要な施策が盛り込んでいかれると、もう少し広まりが加速されるんじゃないかなと思います。

3点目が、冒頭申し上げたことと重なるんですけども、地域住民と外国人との接点をしっかりつくっていくということが、これは、ある意味で全国で5番目に外国人が増えている苫小牧の特徴でもあり、やるべき優先順位としてもっと上げていかなきゃいけないこ

となんだらうなと思います。ここの今ぐっと増えている段階で、イーブンな、対等な形で出会う場をちゃんとつくっておくということがとても大事ですね。何かトラブルが起きてからではなくて、今ぐっと増えていく段階で、地域に来たばかりの外国人の人たちと、それを地域で、これからまさに隣に住む日本人の人たちが早めにきちっと出会う場をつくっておくということがとても大事です。どうしても夜道でばたつとぶつかって、外国人怖いみたいなところから始まっちゃうと、もうそれで一気にネガティブなイメージになってしまいますので、先に正しく対等な立場で出会えるような機会をどんどんつくっておくということが、ほかの自治体と比べても苫小牧市において、今、重要な施策ではないかなと。もちろんそういう項目は、あるいはメッセージは、ビジョンでも書かれているし、今後、指針でももちろん入っていることではあります。向こう3年、5年というスパンを見ますと、そこは苫小牧市にとって大変重要な、優先順位を上げていかなきゃいけない、びゅっと増えていく段階で、何か外国人に対してネガティブな印象を持つような出来事が起きる前に、きちっと接点をつくっておくということが今急がれている施策ではないかなという気がいたしました。

最後、4点目は、担い手の育成のところですね。これは、どの産業も人手不足なんですけれども、多文化共生分野も人手不足なんです。日本語の先生も、五十嵐さんのところも足りないと思いますし、ボランティアも足りないし、通訳翻訳も圧倒的に足りないです。もう全国的に、この多文化共生分野の人が足りないんですね。担い手が不足しているんですけども、担い手も2パターンあって、やっぱりプロでやらなきゃいけない部分と、ボランティアでやるべき部分、ここもきちっと切り分けられないかなと思います。プロがカバーすべき部分と、ボランティアがやったほうがいい部分というのがあるんですね。ただ、予算がないからボランティアにしますじゃないんですよ。ボランティアがやったほうがいい部分というのがあるんです。それは、やっぱり地域日本語が僕はその部分じゃないかなと思っていて、プロが教えるべき日本語のところと、やっぱり地域住民との接点としての日本語教室というのがあるんで、地域住民との接点としての日本語教室というのは、ボランティアでやるほうが、価値がある。ボランティアとして取り組んだほうが、意味があるものですね。それは、ほかにもいろいろあると思うんです。プロでやるべき部分と、ボランティアとしてやったほうが付加価値が出る部分とこののをきっちり分けて、両方を育てる。プロのところは、きちっと待遇も改善して、職業として回せるようにしていくということと、一方で、プロがやっているからボランティアは要らないということは絶対にありません。ボランティアとしてやるべき部分というのはやっぱりありますので、そこはそこできちっと整理をして、ボランティアとしてやるべき部分の人材の育成もきちっと計画的にやっていく必要があるだろうなと思います。

さらに、ボランティアもプロでやる部分も、ここは日本人と外国人の両方いいと思うんですね。特に通訳の部分というのは、ベトナム語やネパール語をしゃべれる日本人は本当に少ないので、ベトナム人やインドネシア人、ネパール人、ミャンマー人の人たちに

通訳として入ってもらふ必要はもう絶対にあります。それから、日本語教室も、僕は、日本語を日本人が、ネイティブが教えなきゃいけない義務はないと思っていて、外国人の人で、日本に来て、日本語を習得した人が、今度は日本語を教える側に回るというのもあっていいと思います。

それから、先ほどありました、病院に行くのも、日本人も苦労しているという話がありました。外国人が病院に行くときに通訳がボランティアでつくというものもありますが、日本人が病院に行くときに、ひょっとしたら送迎を外国人のボランティアがやるというものもあっていいと思いますよ。

防災の分野なんかは、特に外国人が消防団に入ったり、外国人の防災のリーダーの育成というのは全国でやっていますけれども、それ以外の分野のいろんなボランティア活動に外国人も参加をしていく。貴重な若い人材ですから、技能実習生として受け入れていらっしゃる場所でも、外国人の従業員の方、地域でボランティアとして活躍するというようなデザインももっと持っていていいんじゃないかなと思います。

そうすると、地域の方の外国人を見る目が変わっていきますので、外国人を支援の対象として留め置くだけじゃなくて、外国人が担い手として、ボランティアとしても活躍するような、何かそういうデザインを次のステップでは盛り込んでいかれると、先ほどの接点をつくるという機会にもなりますし、苦小牧らしさというところでも、いろいろ活躍できる部分があるんじゃないかなと思います。そういった点を次の段階では盛り込んでいかれるとよりよいものになると思います。長くなりましたが、私からの最後のコメントは以上です。

○小田島座長 ありがとうございます。あと2時間ぐらい本当はしゃべりたいと思いますけど、今日はこの辺でありがとうございます。それでは、すみません、最後に、私から一言お話をさせていただきます。

田村さんが話した後で私がおちゃおちゃ言うこともあれですけど、まず、4回、無事に会議を終えられたということで少し安堵しております。座長として、委員の皆様のご意見を丁寧に聞き出せたかどうかは、私も自信ないところですけども、不手際等があったかと思いますが、どうかご容赦いただければと思います。

今回、今年度で苦小牧市の多文化共生の土台ができたと私は感じております。来年度、指針の策定ということで、さらにそれを進めていくための具体的な事業を策定していく作業になるんですが、これからが本番かなというふうにも感じています。北海道の特徴として、外国人は今5万4,000人ぐらいいるんですけども、その多くが技能実習生ですとか、特定技能、それから留学生ですとか、定期的にやはり変わっていく要素を持った外国人の方がまだまだ多いかなと思います。

我々が目指している多文化共生については、何とか、例えば苦小牧市に長く住んでもらって、一緒に苦小牧市をつくらせてもらう外国人を増やしていこうというのが多文化共生の目的の一つであろうかなと思います。ですので、定期的に変わっていく外国人をで

きるだけ、北海道がいいところ、苫小牧市がいいところだと感じてもらって、それで、人生設計を、例えば最初は単身で来られるかもしれませんが、例えば結婚されて子供を持つですとか、自分の一生をこの地でというような考えを持ってもらう外国人がどんどん増えていけばいいのかなと思います。そういう外国人の方を増やしていくのは、なかなか一朝一夕でやれるということはないんですけども、地道にいろいろなことをやっていくしかないかなと思います。

また、来年、皆さんのお知恵を借りて頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。それでは、事務局の方で、お願いします。

○田山地主幹 すみません、成田が所用のため外しましたので、私の方から最後お話ししたいと思います。委員の皆様、4回にわたりまして、この会議にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。冒頭にも部長から申し上げましたとおり、各議論それぞれテーマに応じた非常に有意義なご議論、ご意見を頂戴できたかなと感じております。次年度におきまして、多文化共生の指針の策定の取組、具体的な施策を取りまとめてまいりたいと考えておりまして、引き続き皆様と連携を図りながら進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第4回苫小牧市多文化共生指針策定準備会議を閉会させていただきます。皆様、誠にありがとうございました。